

マインドマップを活用した「書く力」を高める指導の工夫

— 分かりやすく書くためのワークシートを用いた授業を通して（第2学年）—

宜野湾市立真志喜中学校教諭 久 志 隆 子

テーマ設定の理由

平成24年度より中学校では新学習指導要領が完全実施される。新学習指導要領の改訂の趣旨は「生きる力をはぐくむために言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力等を育成すること」である。そこで言語活動の基盤となる国語科の果たす役割はますます大きくなっていく。

新学習指導要領に示す国語科の指導目標は「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」ということである。さらに、中学校第2学年の「書くこと」の目標は「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。」と示されている。

さて、平成22年度の沖縄県学力到達度調査によると「文章を読み返し表記や語句の用法を分かりやすい文章に直す」こと、「文章と図表などを関連づけて自分の考えを持つ」ことなど「記述に関する本県の課題が顕著である。」とされている。それらのことから、文章をより分かりやすく、また読む相手に伝わりやすく「書く力」を身につけさせることが求められていると考える。

「書くこと」は自分の考えや感じたことを、客観的にとらえたり整理したりするために欠かせない一技能である。そこで、文章を読み手に分かりやすく書くためには、自分の考えや意見を客観的にとらえたり、読む相手や目的を意識したりすることが重要である。さらに、序論・本論・結論のように構成を工夫したり、具体例を加えて描写を工夫するなどのスキルも必要とされる。また、文章を書く力は、生徒に短い文章を書く経験を、数多く繰り返しおこなわせることによって身につくと考えられる。

ところで、1960年代にイギリスの教育学者のトニー・ブザン氏が発案し、提唱する記述法に「マインド・マップ」がある。マインド・マップとは中央にイラストやキーワードでイメージを描き、そこから放射状にブランチ（枝）を広げ、中央のイラストやキーワードに関連・連想されるキーワードやイラストをつないでいくものである。生徒の発想を広げたり考えを整理したりするには効果的な記述法である。また3色以上の色を用いて描くことで、楽しんで振り返りや見直しができ、さらには生徒自身の思考している過程が目に見えて分かるので、文章を書く際イメージをふくらませるのに有効であると考えられる。

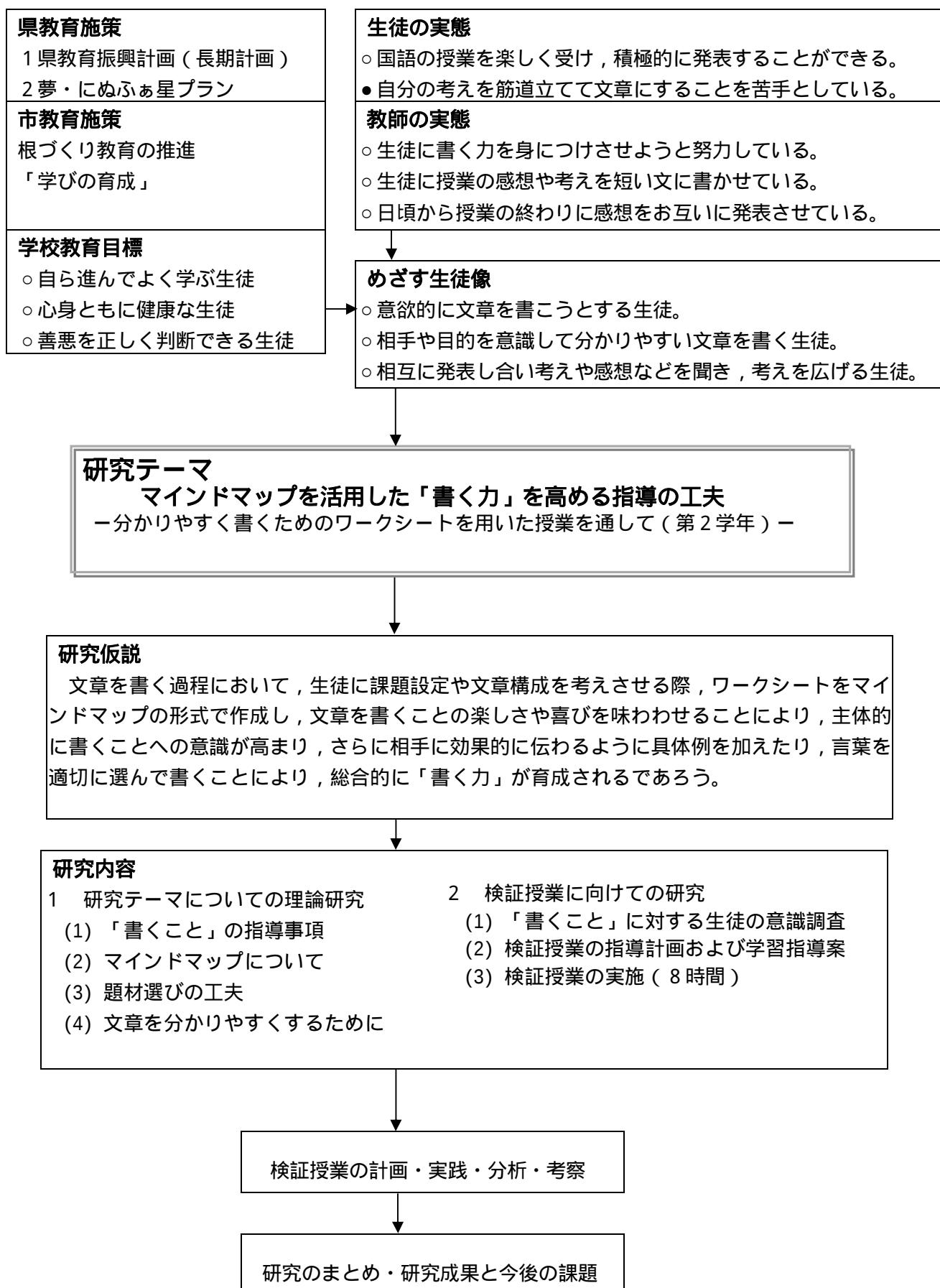
さて、本校の2年生は、自分の考えを短い文章に書くことにはあまり抵抗感なくできるが、字数を増やしたり様式を特定して課題を与えると、一部の生徒は突然に抵抗感を示す。その理由として、書くことに慣れていなかったり書き方をよく理解していないことが挙げられる。

そのために課題設定や文章構成を考えさせる際に、発想を広げたり考えを整理したりするのに有効な、マインドマップの手法を取り入れ書く力を高めていきたい。文章を書く過程においてヒントになるワークシートをマインドマップの形式にすることにより、生徒は楽しみながら書くことができ、書くことに対する関心・意欲が高まり、その結果として「書く力」が向上するのではないかと考え、本テーマを設定した。

研究仮説

文章を書く過程において、生徒に課題設定や文章構成を考えさせる際、ワークシートをマインドマップの形式で作成し、文章を書くことの楽しさや喜びを味わわせることにより、主体的に書くことへの意識が高まり、さらに相手に効果的に伝わるように具体例を加えたり、言葉を適切に選んで書くことにより、総合的に「書く力」が育成されるであろう。

研究構想図



研究内容

1 「書くこと」の指導事項

「中学校学習指導要領解説国語編」において「書くこと」の目標を、第2学年では「目的に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身につけさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。」と明記されている。次の表1には、各学年における「B書くこと」の指導事項について、表2には、第2学年における「B書くこと」の言語活動例が示されている。

表1 各学年における「B書くこと」の指導事項

	第1学年	第2学年	第3学年
課題設定や取材に関する指導事項	ア日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。
構成に関する指導事項	イ集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	イ自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして文章の構成を工夫すること。	
記述に関する指導事項	ウ伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	ウ事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫して書くこと。	イ論理の展開を工夫し、資料適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。
推敲に関する指導事項	エ書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。	エ書いた文章を読み返し語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。	ウ書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。
交流に関する指導事項	オ書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。	オ書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。	エ書いた文書を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

表2 第2学年における「B書くこと」の言語活動例

第2学年
ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。
イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。
ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

第2学年の指導事項、アの「社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。」とイの「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして文章の構成を工夫すること。」については、文章を書く力があまり育成されていない生徒、すぐには書く内容が思い浮かばないとか、自分でも何を考えているかあいまいであるなどの生徒にとって、課題設定、取材、構成を考える際何らかの手立てを工夫をする必要がある。課題設定や取材、構成を考える際、マインドマップを活用したワークシートを用いれば、発想が広がり思考の過程が目に見えるようになり、課題設定や取材が比較的容易にできるのではないかと考え、マインドマップを研究に取り入れてみた。

2 マインドマップとは

「マインドマップ」(英国Buzan Organisation Ltd.の登録商標)はイギリスの教育者トニー・ブザンが、長年の研究と実践を基に開発し提唱している思考手法である。記憶法、読書法、ノート手法からなるブザン式学習法の柱としてマインドマップは1970年代初頭から世に認められている。

「マインドマップ」を直訳すると「頭(または心)の地図」であり、町の中心部から郊外に向けて道路が広がる地図のように、マインドマップも中心から外へと放射状に展開する。中心に描いたテーマから四方八方に枝が広がるさまは、五感を通じて得た刺激をきっかけに一斉に連想が広がる「脳の情報処理プロセス」にも例えられる。マインドマップは当初、覚えやすく、思い出しやすいノートのとり方として、ギリシャ・ローマ時代にさかのぼる記憶法を基に考案された。キーワードとキーイメージ(絵や記号など)に情報を凝縮する、大きなまとまりに分類・整理する、カラフルにかく、情報を一枚の紙に集約して全体像を俯瞰しつつ、詳細も確認できるようにするなど、そのかき方には脳の様々な機能を活かす工夫が盛り込まれている。このためマインドマップをかく過程がそのまま脳の活性化につながり、記憶力だけでなく理解力、整理力、発想力、問題解決力などの向上を図ることが可能である。ブザンは脳の機能をバランスよく使う手本として、レオナルド・ダヴィンチ、アインシュタインを挙げている。トニー・ブザンはマインドマップの開発過程で彼らのノートを研究し、かき方の参考にした。世界的に言えばマインドマップはビル・ゲイツ、ゴア元米副大統領などから高く評価されている。またIBM、ディズニー、BMWなどの国際的な優良企業でも採用され、会議、プロジェクト管理、企画、開発など、活用の幅が広がっている。

教育界でも世界的に普及しており、OECDによる学習到達度調査で首位のフィンランドでは、「カルタ」と呼ばれるマインドマップ形式のノートが授業で使われている。

そこで、本研究でも発想を広げ整理していくのに有効と思われるマインドマップを作文に生かさないかと考えて取り入れることとした。

次に、マインドマップの例と専門用語とかき方を図1で示して説明する。

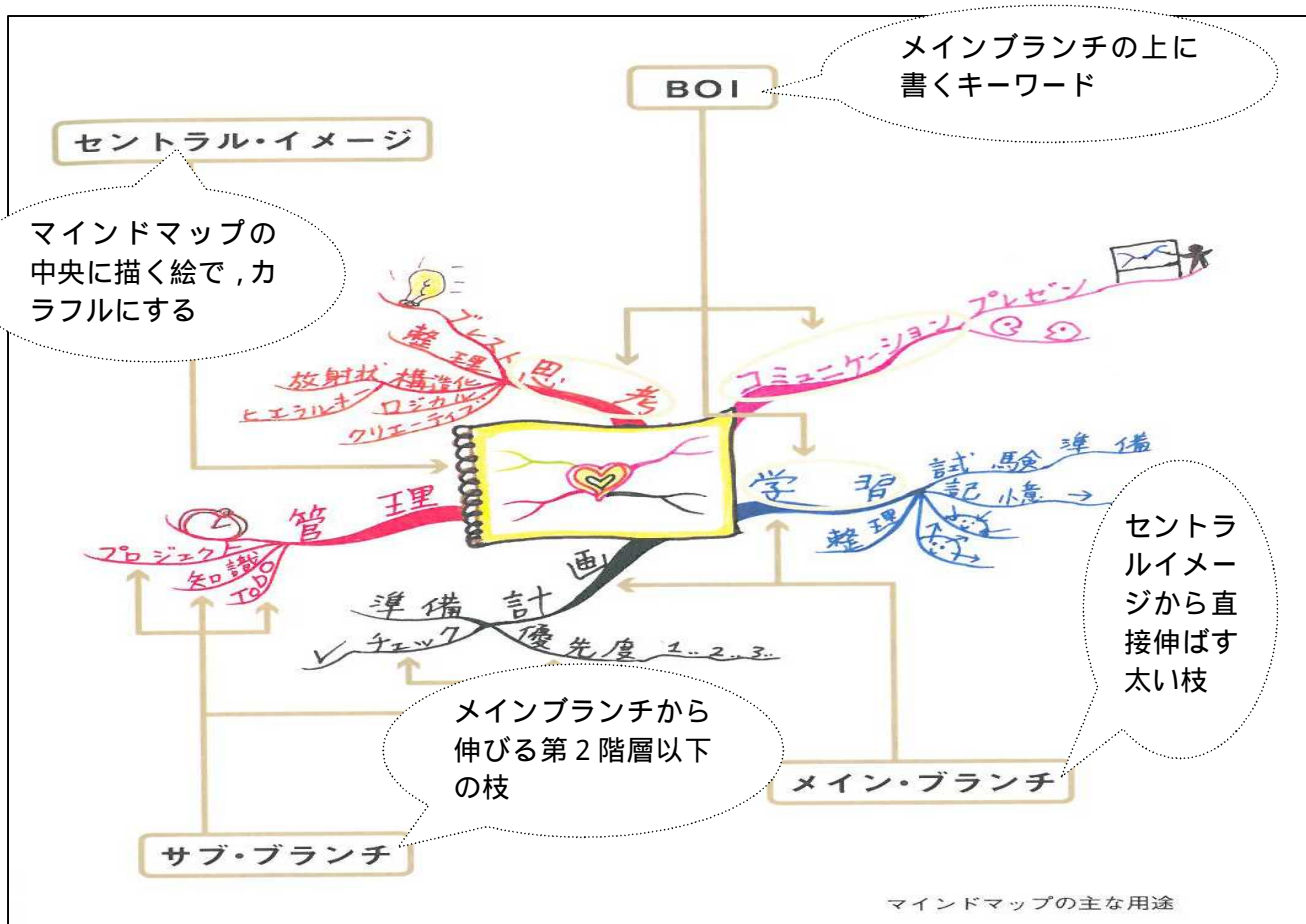


図1 手描きのマインドマップの例 「マインドマップ超入門」より抜粋

3 題材選びの工夫

次に題材選びをさせる際の工夫について述べる。文章を書くとき、題材（内容）を決めるのは生徒にとってかなりエネルギーを使う大変な作業だ。文章を書くとき、何を書いたらいいのかわからなくて混乱している生徒はたくさんいる。実際、研究に先立っておこなった「書くこと」への意識調査によると、文章を書くのが苦手だという生徒は全体の約6割であった。その理由は、何を書いたらいいかわからない、どのように書いたらいいのかわからないなどであった。

ところで、書くことが苦手な生徒にとっては題材を選ぶことや材料を集めることはかなり大変な作業であると思われる。そこで題材選びにおいて手立てを講じることが必要となってくるのである。

その一つとして教科書にはマッピングの例が挙げられていて、マッピングやウェビングの有用性は認められている。そしてこれまでも、意見文や読書感想文の指導において題材選びや材料集めの段階でウェビングを取り入れた指導を行ってはきたが、その方法では枝が一本しかないということで発想はあまり広がりが見られなかった。そこで、いろいろなマッピングがある中で発想の広がりや、思考が一目瞭然となるさまなどからマインドマップを取り入れて題材選びや材料集めを工夫しようと試みた。

生徒たちは、小説の読み取りの授業でマインドマップを用いた記述法でまとめたという経験をしてもいるので、作文の学習でも題材選びや材料集めに有効ではないかと思い書くための指導に取り入れてみたい。

4 文章を分かりやすいものにするために

生徒の作文が分かりやすく書かれているか相互推敲を通しての学びあいを取り入れたいが、大賀崇司（2010）のチェックシートをたたき台にして次のように作成した。特に本研究で生徒に書かせる文章は自己紹介の文章を、視点を変えて自分を取り巻く様々な物や人物の中から、自分の興味や関心のあるものから見た自分を紹介するという学習なのでそれにふさわしい条件を考えてみた。

そこで表3のようにまとめた。

表3 チェックシート

チェックシート（推敲）		月	日（ ）
		年	組 番, 氏名（ ）
		チェックした人の名前（ ）	
○よくできている △まあまあできている ×できていない			
	チェック項目	評価	コメント
表 記	初級 ① 全体の8割以上を書いている。		
	② 字は大きく濃く書いている。		
	③ 字はバランスよく丁寧で中心が通っている。		
	中級 ① 5W1Hが分かりやすい。		
	② 句読点は読みやすく使われている。		
	上級 ① 誤字・脱字・当て字などがなく送り仮名も正しい。		
語 句	② 中学2年生にふさわしい漢字を使っている。		
	③ 全体として原稿用紙の使い方が適切である。		
	初級 ① 一文の長さが60字以内である。		
	② 主語と述語は正しく対応している。		
	③ 文末が敬体・常体で統一している。		
	中級 ① 文体にふさわしい言葉で書いている。		
段 落	② 接続語は、意味を考えてきちんと使っている。		
	上級 ① 同じ言葉の繰り返しが少ない。		
	② 指示語が少ない。		
	③ 語句の選び方が適切である。		
	初級 ① 2～3段落以上の構成になっている。		
	② いいたいことはきちんと書けている。		
落	③ 段落の順序は正しく書かれている。		
	中級 ① 段落の内容が前後でうまくつながっている。		
	② 内容がくわしく書かれている。		
	上級 ① 視点ははっきりしている。		
級	② 読み手に分かりやすく書いている。		

表3に挙げた通り、分かりやすい文章とはまず、一文が60字以内であり、主語・述語のねじれがなく、文末が統一されているということである。

また、内容的には2～3段落以上の構成で書かれていることが望ましい。そして、いつ、誰が、どこで、何をどうしたか、それはなぜかなどがはっきりしていることが大切である。

描写は具体的な事柄が詳しく述べられていて、段落は前後関係がうまくつながっている必要がある。

また、今回の授業は「視点」を変えて、身の周りのものから自分を紹介する文章を書くことなので、「視点」がはっきりとしているかが大事になってくるので段落の項目中、に「視点」の項目を入れた。

5 「書くこと」に対する意識アンケート

(1) 調査目的

生徒の文章を書くことへの意識を把握して本研究の資料として役立てる。

(2) 調査対象

真志喜中学校 2 年 2 組 男子 19 名，女子 20 名計 39 名

調査日時：平成 23 年 11 月 7 日

調査方法：質問紙によるアンケート調査

(3) 結果および考察

質問紙によるアンケートで 4 問は選択肢で選び，最後の 1 問は自由記述式で答えさせた。

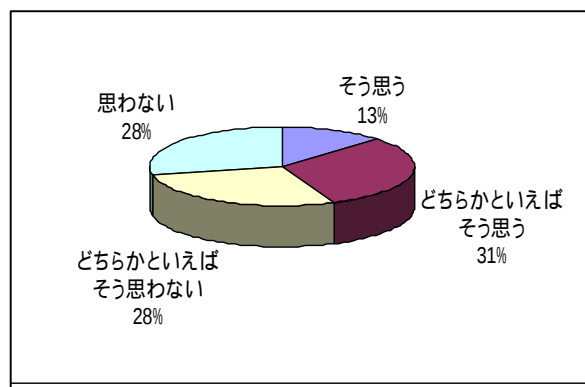


図2 文章を書く学習が好きか

[考察]

図2で示すように，生徒たちは，44 %（17 人）が「どちらかといえば文章を書くことを好きだ」と回答している。

「あまり好きではない」と答えた生徒は 56 %（22 人）であった。

あまり好きでない理由として，「何のために書くのか分からない」，「どうやって書いたらいいのか分からない」，「書きたいことが思いつかない」といったことが挙げられる。

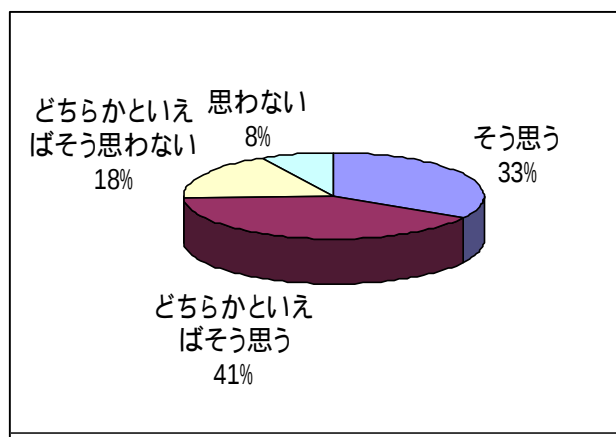


図3 文章を書くことは，日常生活の中で必要か

[考察]

図3で示すように，74 %（31 人）の生徒が「日常生活の中で，文章を書くことの必要性を感じている」と回答している。

その理由として，日常生活の中では，自分の気持ちや考えたことを相手に伝えるためには，口頭で伝えるだけでなく，手紙やメモにして書き残す必要性を感じているということが挙げられる。

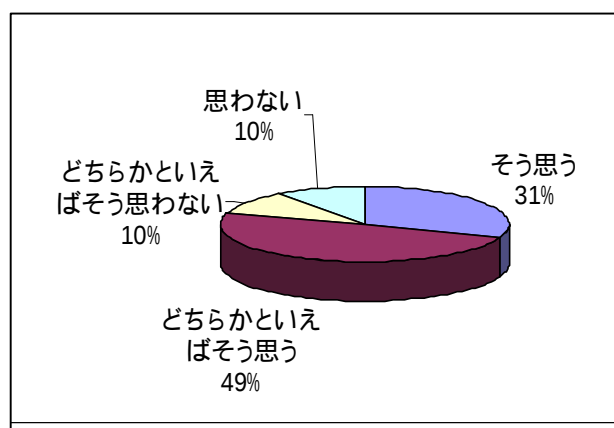


図4 文章を書く学習は，ほかの教科や総合的な時間の学習に役立つか。

[考察]

図4に示すように，ほとんどの生徒（80 %，31 人）が，「文章を書く学習は，ほかの教科や総合的な学習の時間に役立つ」と回答している。

それは，他の教科でも報告書やレポートを書く機会が多く，総合的な学習での体験学習や訪問活動の際には取材等をするからである。お礼状を書くこともある。

また道徳や特別活動の時間でも自分の感想や考えなどを書く機会が多いことなどが考えられる。

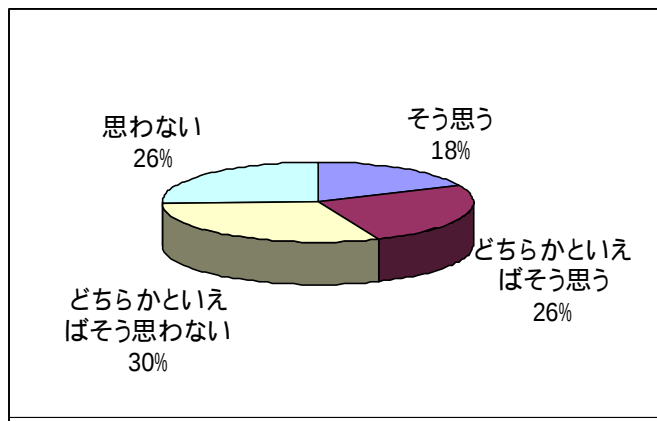


図5 文章を書くとき、書こうとする内容はすぐ決まるか

[考察]

図5に示すように、「書く内容がすぐに決まる」と回答した生徒は44%(17人)であった。また、「すぐには決まらない」と回答した生徒は56%(22人)であった。

それはなぜかという点、国語科の課題や形式を設定した文章を書く授業において課題設定や取材、構成を考えさせる活動の時間を十分に設定できなかったからではないかと推測される。また、課題設定の方法についても手立てが十分でなかったであろうと推測される。

そこで今後は、文章に書く内容を決める時間を十分に確保したり、内容を決める方法を具体的に指し示すなどの支援をより多くしていきたい。

「文章を書くとき、どのようなことに気をつければ読み手に分かりやすい文章が書けますか」との問いに自由記述で回答させ、回答を次の表4にまとめた。

表4 分かりやすく書くために気をつけること

- 相手に伝わるように意識して書く。
- 分かりやすい文章を書くように意識して書く。
- 読んでいる人がおもしろいと思えるように書く。
- 段落に気をつけて書く。
- 内容をメモして、しっかりとまとめてから書く。
- 一文を短く簡潔に書く。
- 句読点やかぎかっこに気をつけて書く。
- 漢字は間違えないように正しく書く。
- 分からない言葉や難しい言葉は辞書をひきながら書く。

[考察]

表4には、書くときに相手にわかりやすく書くにはどんなことに気をつけたらいいか自由記述で回答したものをまとめてみた

「相手を意識して書く」とか、「分かりやすい文書を書くように意識して書く」など生徒の回答から、日頃の文章を書く際の諸注意をよく理解して書こうとしていることが伺える。文章を書くときの意識は高いことが分かった。

アンケート全体からの考察

生徒たちは、文書を書く学習はあまり好きではないが、文章を書くことの必要性や有用性は感じている。また、段落に分ける、わかりやすい言葉で書くようにする、推敲するなど、読み手にわかりやすく書こうと意識していることが伺える。そのことから書くことについての日頃の諸注意を理解してはいることが分かった。

しかし、現実的には文章を書くときに書く内容がすぐには決まらないという生徒が多く、その結果文章を書くのが好きではないという結果になったと考えられる。

そこで、生徒の実態を考えて生徒が書くことに苦手意識を持たずに、また堅苦しく構えずに書くことができるような手立てを考えていきたい。そのためには課題設定を容易にしたり、書く材料を集めたりする作業を容易にすることができるよう手立てを考えていきたい。

その手立てとして、課題設定の際、発想が広がったりアイデアが浮かんだり、考えを整理するのに有効とされているマッピングを考えてみた。

そこで、いろいろなマッピングがある中で本研究では、発想の広がりや整理する力が向上するといわれているマインドマップを取り入れようと考えた。特に課題設定のときは有効であると思われる。

また、文章をどのように書いたらいいのかわからないという生徒もいるので、マインドマップを活用したワークシートで集めた単語を文の形にするためのワークシートの工夫も併せて考えていきたい。そうすることによって文章に書く内容が分かり、書く手順が分かることなどから文章を書くときに抵抗感をより少なくすることができるのではないかと考えた。

国語科学習指導案

平成24年1月13日(金)3校時
 宜野湾市立真志喜中学校2年2組
 男子20名,女子20名,計40名
 授業者 久志隆子

1 単元名 6 生きる姿

「作品をさまざまな視点からとらえ,人間について理解を深める」

2 教材名 「視点を変えて書こう」

新たな自分を発見する

3 教材の目標

- 自分を見る視点を探し,自分がどう見えるかを整理する。
- 視点を定めて文体を工夫し,自分について書く。
- 書く活動を通して,自分を見つめる。

4 教材の評価規準

本単元における評価は下記の3つの観点に基づいておこない,評価方法としては,発言,ワークシート,事前・事後の調査などから総合的におこなうものとする。

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く力	ウ 言語についての知識・理解・技能
自分を見る視点を探し,自分がどう見えるかを整理し,定めた視点で自分を紹介する文章を書こうとしている。読み手に分かりやすい文章を書こうとしている。	自分を紹介するために自分の特徴をマッピングなどで見つめ,文章にするための材料を集めている。 自分の特徴がよく分かるように材料を並べ,構成を工夫している。 自分の特徴がよく分かるように具体的な事柄を書いている。 書いた文章を読み返し,描写や全体の構成などに注意して読み手に伝わるように文章を推敲している。 書いた文章を互いに読みあい,書いた人の特徴や描写,構成の効果などを観点とした感想を交流し,考えを広げている。	相手に効果的に伝えるために文章の形態や展開に気をつけて書いている。 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き,文や文章の中で使っている。

5 指導事項(書くこと)と生徒の活動

指導事項	生徒の活動
ア 社会生活の中から課題を決め,多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	→マッピングによって自分の特徴を探し,自分を紹介する題材を探す。
イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして,文章の構成を工夫すること。	→自分の特徴が分かりやすく文章に表せるように,文章の構成を工夫する。
ウ 事実や事柄,意見や心情が相手に効果的に伝わるように,説明や具体例を加えたり,描写を工夫したりして書くこと。	→自分の特徴が読み手に伝わるように,具体的な事柄を述べる。
エ 書いた文章を読み返し,語句や文の使い方,段落相互の関係などに注意して,読みやすく分かりやすい文章にすること。	→文章を読み返し,語句の使い方,段落相互の関係などに気をつけながら推敲する。
オ 書いた文章を互いに読み合い,文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして,自分の考えを広げること。	→書かれた文章から書いた人の特徴や,文章のよさを見つけ,互いに考え方を広げる。

6 教材について

(1) 教材観

本教材では、自己紹介の文章を書くのだが、自分を取りまく様々な物や人の視点から自分を捉えなおして書くことによって、第三者的な視点から自分を紹介するという形式をとっている。

また、生徒たちは1年生のときに一人称で自己紹介の文章を書いてきている。本教材では自分以外の物や人物から客観的に見た自分を紹介する形の文章を書くことになっている。

本教材は自分の身の回りの物や人物から自分を客観的に見つめて、普段と違う自分を発見し、文章を楽しんで書くのにふさわしい教材である。

(2) 生徒観

生徒たちは今までに、自由詩や意見文、俳句や川柳、短歌の学習を通して何度も文章を書いてきている。日常的にも文章を書く機会は多く、生徒たちは短い文章を書くことには慣れている。

そして、検証授業前のアンケートによると生徒たちは文章を書くための学習の必要性や大切さはよく理解している。

しかし、自由詩や俳句、川柳といった短い文章を書くときは生き生きとして、楽しそうであるが意見文や読書感想文などを書くことは、あまり好まない生徒が多い。

また、検証授業前のアンケートにおいても、書く内容がすぐには思い浮かばない、書くことの意義が見出せない、どうやって書いていけばいいかよく理解できないなどの理由から、文章を書くことが苦手であるといった生徒は多い。

(3) 指導観

本教材では、自己紹介の文章を書くのに、視点を変えて自分を取り巻く様々な物や人物から自分を見つめて書くことが必要である。そうすることによって新しい自分を発見していくことができるようになると考える。

また、自分を見つめる視点を探るとき、マインドマップを活用したワークシートを使っていくと、思考していることが図に表れるので発想を広げるには有効である。そこでマインドマップのワークシートを活用した授業を実践していきたい。

7 指導計画とマインドマップの活用及び評価計画（全8時間）

活動形態（個・・・個別，ペ・・・ペア，グ・・・グループ，斉・・・斉）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点およびマインドマップの活用	評価規準・方法等
1 課 題 設 定 ・ 取 材	1	・題名読み（教科書のp176を読む） ・マインドマップ，ミニマインドマップの再確認をする。（斉） ・視点となるものを探す。（個） ・選んだ視点から自分を見つめていく。（個） ・ミニマインドマップに記述する。（個） ・カラーペンを使いカラフルに記述する。 ・マインドマップに思いつくままに記述する。（個） ・枝（ブランチ）を引く。	・「視点を変えて書こう」 ・プロジェクターで投影して示す ・ミニマインドマップ（ワークシート）思いつくままに記述させる。 ・カラーペンなどを準備させる。 ・マインドマップ（ワークシート） ・マインドマップの枝は3～5本程度あればよい ・マインドマップに記述する。	・観察 ・マッピングにとり組もうとしている（個）イ ・ワークシートを観察する。イ ・机間指導

		・イラストをかく。	・言葉は少なくともよいと知らせ安心させる。 ・イラストは上手でなくてもよいことを知らせる。	・観察する。
2 構 成 ・ 記 述	2 本 時 3 4	・教科書 p 178,179 の例文を読む。 ・視点にふさわしい文体を考える。 ・マッピングをする。 ・分かりやすい文章の構成を考える。(個) ・ワークシート で視点, 文体, 工夫したいことを整理させる。(個) ・ワークシート を早く終えた速い生徒はノートに下書きをする。 ・原稿用紙 に記述する。 ・文体に気をつけて書く。	・文体について知る。 ・定めた視点にふさわしい文体を考える。 ・ワークシート ・カラーペンなどを準備させる。 ・早くできた生徒のワークシート をプロジェクターで投影して示す。(斉) ・遅い生徒に個別指導をする。 ・早くできた生徒のワークシートの例を参考にさせる。 ・ペア学習を促す。 ・原稿用紙の使い方を全体, 個別に指導する。 ・原稿用紙 に記述する。	・机間指導 ・マッピングにとりくんでいる。 イ, ウ ・ワークシートに取り組んでいる。 ・プロジェクター ・机間指導 ・ペア学習に取り組んでいる。 ・机間指導 ・原稿用紙 に記述している。(個) ア, イ
3 推 敲 ・ 清 書	5 6	・語句, 文, 段落に気をつけて推敲する。(個), ・2名1組になって推敲する。(ペア) ・誤字脱字などは直接原稿用紙に赤字で記入しチェックする。 ・推敲を受けて原稿用紙 に清書する。	・チェックシートに記入しながら推敲する。 ・赤ペンなどを用意しているか確認する。 ・原稿用紙 に清書する。(個)	・推敲している(個) ア, イ ・机間指導 ・原稿用紙 に清書している。 ア, ウ ・机間指導
4 交 流	7 8	・発表する。(斉) ・発表を聞き評価カードに記入する。 ・自己評価カードに文章を書いた感想などを記入する。 ・アンケートに記入する(マインドマップを活用して思ったことなど。)	・時間にゆとりをもって設定し全員に発表させる。(斉) ・発表評価カードに記入させる。 ・自己評価カード	・交流している。 イ ・自己評価カードを観察する。 ・アンケートに答えている。

8 本時の指導 (2 / 8)

(1) 単元名：6 生きる姿 (光村図書第2学年)

(2) 教材名：視点を变えて書こう[言語活動：自分を紹介する文章を他者の視点で書こう]

新たな自分を発見する

本時のねらい

・視点，文体など表現上の工夫点，知らせたいこと，伝えたいことを整理することで文章の書き方が分かる。

授業仮説

・ワークシート (前時で集めた単語を文にするためのもの) を活用すれば，視点や文体など表現上の工夫，知らせたいこと，伝えたいことの整理が容易にできるであろう。

準備するもの，教師 (プロジェクター，ワークシート)，カラーペンなど (生徒各自)

(3) 展開

T:教師の発話，S:生徒の発話

過程	学習活動	指導上の留意点およびマインドマップの活用	評価規準 評価方法
導入 5分	1 前時の確認と本時のねらいを知る。 ・教科書 p178, 179 の例文を読む S: 先生，文体って何ですか？ T: 物語・小説・報道文・手紙などですよ。 S: 日記でもいいですか？ T: いいですよ。	・マインドマップの例をプロジェクターで示す。(ワークシート，) 	・本時のねらいが分かる。 ・ワークシートの観察イ ・ワークシート の書き方を再確認する。 S: マインドマップって楽しそう！
	・視点，文体など表現上の工夫，知らせたいこと，伝えたいことを整理する。 ・ワークシート で整理する。		
	S: 視点って何でもいいのか？ T: 自分の興味や関心のあるもので詳しく知っているものなら何でもいいですよ。 S: じゃあ，サッカーにしようっと。		S: 視点はサッカーにして，文体は物語がいいかな。そうしよう。 S: サッカーに出会ったのは2年生になってからだったね。
展開 40分	2 自分を紹介する文章の構成を工夫する。  T: 分からない生徒は，誰かに相談してもらってもいいよ。 T: 誰かに教えたらより深く学習したことになるよ。	・マインドマップで作成したワークシート で視点，文体など表現上の工夫，知らせたいこと，伝えたいことを整理する。 ・遅れている生徒に早くできている生徒のモデルをプロジェクターで示す。 ・互いにマインドマップを見せ合う。(ペア学習，5～10分程度) 	・机間指導 ・ワークシート の観察イ T: ワークシート には単語を一文にするんだよ。 T: Aさんのワークシートが早くできたからみんなに見せようね。 S: ねえ，B君，どんなして書いたらいいの？教えてちょうだい。 S: 簡単さ。こんなだよ。 ・机間指導 ・自分の特徴がよくわか

	シート を基に下書きをする。	・ワークシート ができた生徒はノートに文章を下書きする。	るように具体的な事柄を書いている。イ ・観察
まとめ 5分	4 今日の授業の振り返りをする。 5 次時の予告を確認する。	・ワークシート で視点、文体など表現上の工夫、知らせたいこと、伝えたいことの整理させる。	・観察 ・ワークシートの観察 イ ウ

9 授業研究会

(1) 授業者反省

前時に、ワークシート ， を急いでさせてみたものの、仕上げた生徒と仕上げられなかった生徒の差が大きい。シート ， にもっと時間をかければよかった。見通しは甘かった。仕上げることでできなかった生徒に対し手立てを考えていきたい。何名かの生徒はノートに下書きを書き始めていたので次時には原稿用紙に書かせたい。

(2) 参観者の意見及び感想

マインドマップを活用すればアイデアが湧くと思った。文章を書くときの動機付けにマインドマップを取り入れたのはよかったと思う。
マインドマップで2ないし3の言葉が見つかれば次の作業に移らせた方がよかった。
マインドマップが何に使われているか、もっとはっきりと生徒に示した方がよかった。
視点を変える際に何か例示をして教えるのが早道だったと思う。

(3) 質疑応答

質：研究仮説にある「文章を書くことの楽しさや喜びを味わわせることにより・・・」は今日の授業ではどのようにとらえるか。

答：文章を書くとき「書く内容が分かること」があって初めて楽しくなる。また書き方の順序がわかることも大切である。今日はマインドマップで集めた単語を文の形にすることをねらいとしたのでそれができればいいのかと思った。テーマが決まり、構成ができれば達成感があって、学習の楽しみが分かると考えている。分かることが楽しいということの始まりだと考えている。

質：何をもって「書く力が高まった」としたのか。

答：文章を書く力をいくつかに分けて考えると課題設定，取材，構成，記述，推敲の力という様に分けられる。今日はその中の記述の力を高めようとした。前時に書いたマインドマップの中の単語を文に変えるというのが本時のねらいであるが、ねらいを達成できた生徒は少ないが何人かいた。

(4) 指導助言（県立総合教育センター研究主事 島仲 由美子）

マインドマップを示して教師自ら単語と単語を文章化させるさまを見本として示してあげたほうが良かった。

互いの気づきを促進するためにもっとペアワークを取り入れて欲しかった。そうすれば文のねじれなども訂正することができたのではないか。

時間は区切って作業をさせたほうが良い。一旦作業状況を確認することが必要だと思う。

自己紹介のためのマインドマップということ忘れて、マインドマップに夢中になっている様子が見られたので、再度ねらいを徹底し逸れないようにしむける方がよかった。

途中でスライドを入れたが、後ろからは見えなかったので効果としてはどうか。視聴覚教材は見えないと意味がないので見せる工夫をした方が良い。

評価カードについては、数値で表すだけでなく生徒のコメントを書く部分を作る。そうすれば生徒の反省や感想，質問等から気がつかなかった教師の課題が見えてくるし、次時の授業構成のヒントとなることもある。

仮説の検証

本研究では「文章を書く過程において、生徒に課題設定や文章構成を考えさせる際、ワークシートをマインドマップの形式で作成し、文章を書くことの楽しさや喜びを味わわせることにより、主体的に書くことへの意識が高まり、さらに相手に効果的に伝えるように具体例を加えたり、言葉を適切に選ぶなど書くことにより、『書く力』が育成されるであろう。」という仮説に基づいて研究を進めてきた。

研究の仮説について、検証授業における実践、ワークシート、アンケート調査、授業の感想、自己評価などをもとに検証する。

1 A男君のワークシート及び作文からの検証

授業の流れはワークシート で興味・関心のあるものを見つけ、ワークシート で視点と自分の関係を整理し、ワークシート で単語を文の形にし、最後に原稿用紙に文章を書きそれを推敲し清書するという流れで構成されている。

はじめに、生徒の作文で検証授業の前に取り組んだものと検証授業で取り組んだものの比較と、マインドマップから作文にしたものを挙げてみる。A男はあまり書く力がなく、当初の作文は200字までかけなかったが文字数や段落が増え、内容的にも詳しく書けるようになり書く力が高まったことが伺える。作文を書く途中で視点を「映画」から「ペット」に変えたがその過程で自分をしっかりと見つめることができたものと思われる。ペア学習で推敲をした後の作文は誤字・脱字が直されていて、内容的にも深まり詳しく書けており、書く力が高まったと思われる。

次の図6ではワークシート で自分の興味・関心のあるものをあげて作文の材料を集めている。



図6 ワークシート ミニ・マインドマップ

次にワークシート をもとにして 決めた視点と自分の関係を整理する作業したものが下の図7である。

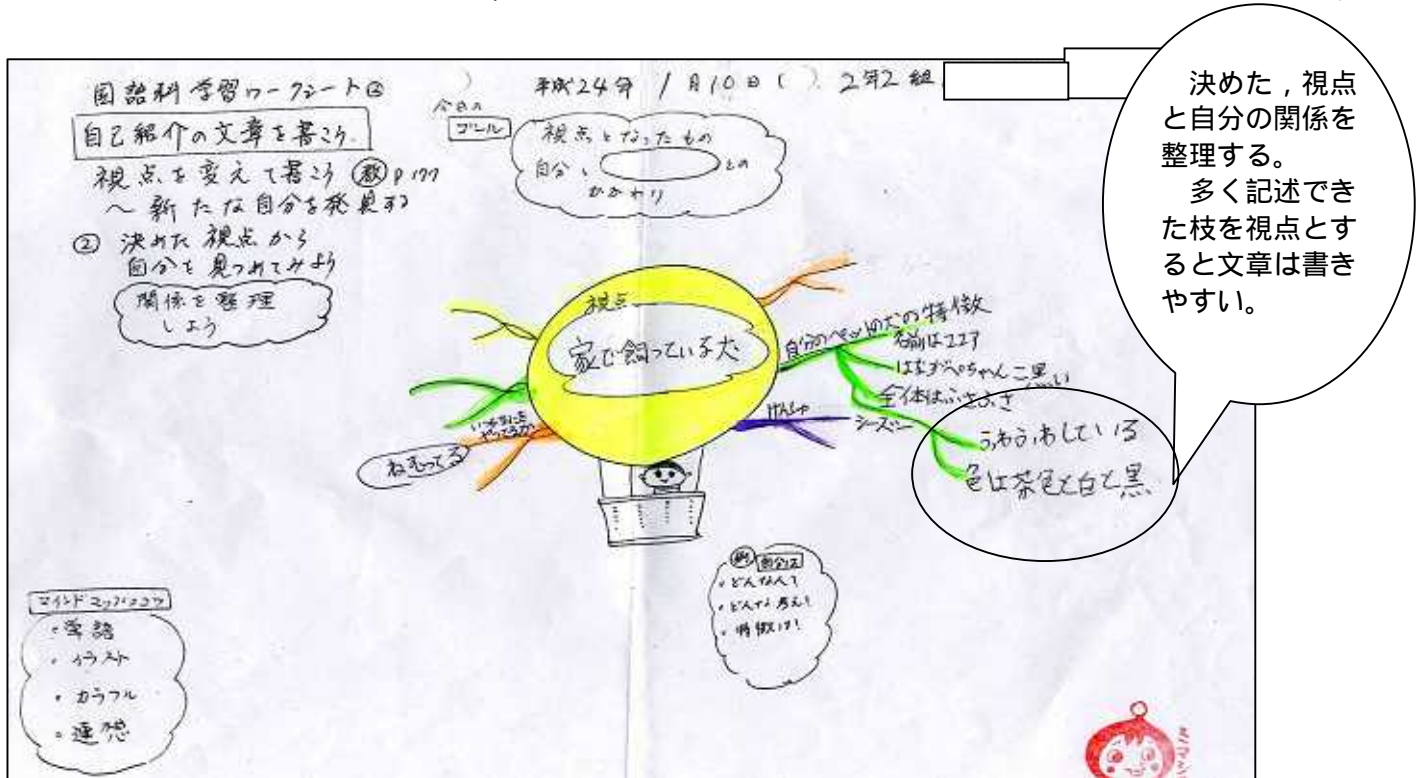


図7 ワークシート マインドマップ

次にワークシート を基に単語を文の形にしたものが下の図8 である。ワークシート は視点、工夫したいことを意識させ、文にするためのものであり、どう書いたらいいかわからない生徒に有効である。

国語科 学習ワークシート③
平成24年 1月 13日 (金)
2年 2組

例 ○△君のグロップだぜ。○△君はね、僕にいつもクリームをぬってくれるのさ。...

①視点
何から自分をみるか。
家で飼っているペット(犬)
例 「○△君のグロップ」

②工夫したいこと
【文体】次から選んで○で囲む。
小説・報道文・紀行文
手紙・(日記) 劇の台本・脚本
物語 その他 ()
【文法】次から選んで○で囲む。
常体 () である。)
敬体 () へます。)
その他 () など ()
【その他工夫したこと】

③ワークシート②で書いたものをもとに文にしてみよう。
・枝に並べてのせた単語を文の形にして書いてみよう。
今日、**△男** ベンと散歩に行った。**△男** ベンは、今日はよくひえると言った。グロップを食べて行った。ベンは、よくひえる。だて僕には、かわいかなさがあるから。

ワークシート ではワークシート を基にして単語をいくつかの文になるように書く。

△男

図8 ワークシート

検証授業に入る前の自己紹介の文章と検証授業後の文章を比較してみる。

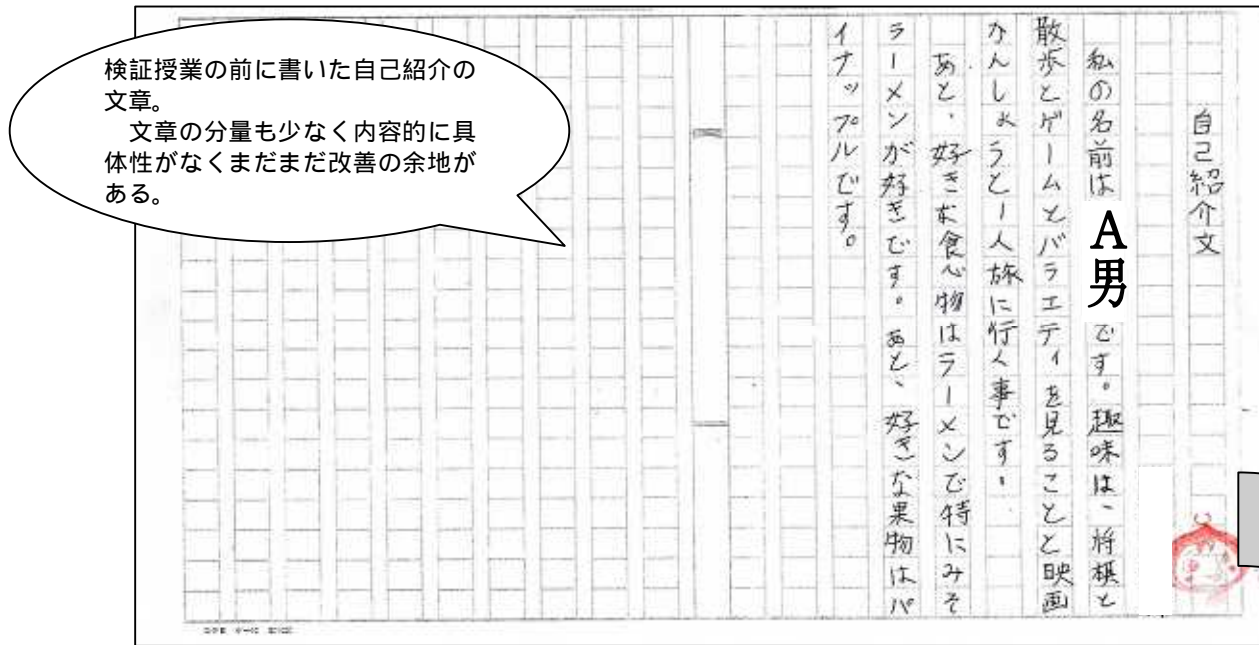


図9 検証授業の前の自己紹介の文章

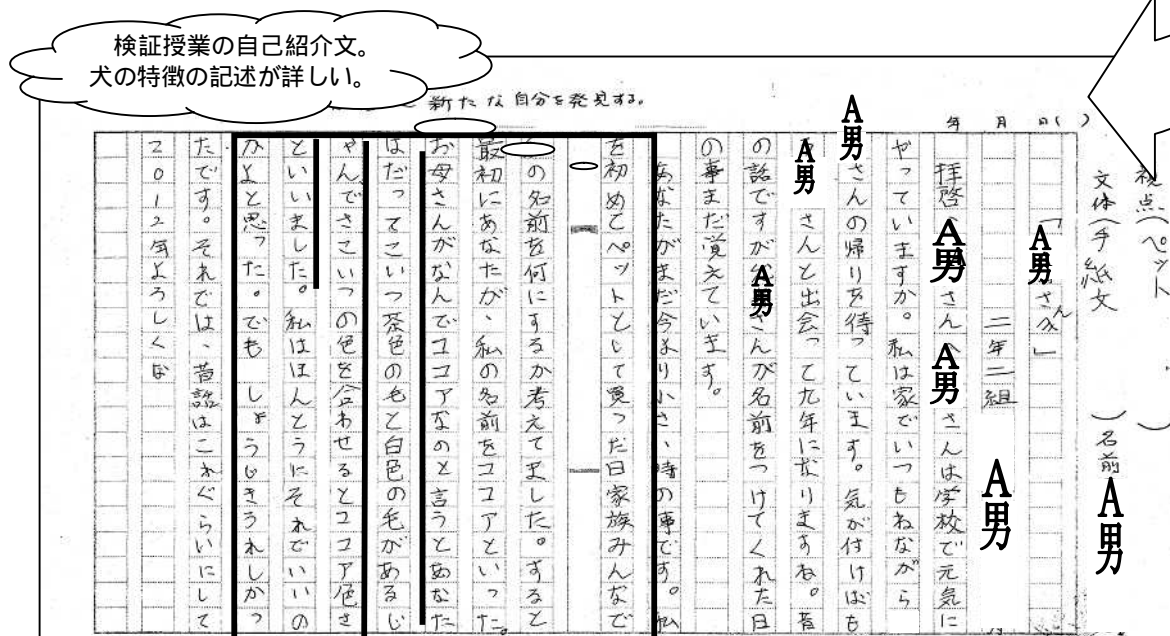


図10 検証授業の自己紹介の文章

[考察]

視点を変えて自分の興味・関心のある物事（この生徒の場合は家で飼っているペットの犬）の視点から見た自分を紹介している(図10)。文体は「手紙文」を選んで自分を紹介している。書くための材料を集めることができ、内容的にも詳しく具体的に書き、字数制限の課題であった200字以上400字以内の制限もよく守ることができ書く力が付いたと考えられる。

また、検証授業に先立って書いていた自己紹介文の文章では、字数は課題の200字以上400字以内という課題を達成できていない。内容的にも具体的な描写が少ない。

それに比べると検証授業後では、具体的な事例をあげていて字数も増え、ペットのことをいかに大事にしているのかわかりやすく描写されていて、書く力が格段に高まっていると考察される。

2 チェックシートおよび発表の評価カードからの検証

次に3時間目に書いた原稿 を推敲する際に用いたチェックシートから検証する。

チェックシート（推敲）			月	日（ ）	結果	
			年	組	番、氏名（ ）	
			チェックした人の名前（ ）			
○よくできている △まあまあできている ×できていない （数は人数）31人中						
		チェック項目	○	△	×	
表	初	① 全体の8割以上を書いている。	25	5	1	
		② 字は大きく濃く書いている。	29	2	0	
		③ 字はバランスよく丁寧で中心が通っている。	28	2	1	
	級	① 5 W 1 H が分かりやすい。	28	3	0	
		記	② 句読点は読みやすく使われている。	29	2	0
			上	① 誤字・脱字・当て字などがなく送り仮名も正しい。	31	0
級	② 中学2年生にふさわしい漢字を使っている。			27	3	1
	③ 全体として原稿用紙の使い方が適切である。	26		5	0	
	語句	初	① 一文の長さが60字以内である。	30	1	0
② 主語と述語は正しく対応している。			30	1	0	
③ 文末が敬体・常体で統一している。			28	1	2	
中		① 文体にふさわしい言葉で書いている。	29	2	0	
		級	② 接続語は、意味を考えてきちんと使っている。	30	1	0
			上	① 同じ言葉の繰り返しが少ない。	30	1
級				② 指示語が少ない。	30	1
		③ 語句の選び方が適切である。		30	0	1
		段落	初	① 2～3段落以上の構成になっている。	25	5
② いいたいことはきちんと書けている。	30			1	0	
級	③ 段落の順序は正しく書かれている。		29	1	1	
	中		① 段落の内容が前後でうまくつながっている。	28	2	1
級			② 内容がくわしく書かれている。	27	4	0
	上		① 視点ははっきりしている。	30	1	0
級			② 読み手に分かりやすく書いている。	30	1	0

図 11 チェックシート結果

[考察]

図 11 にチェックシートの結果をあげたが全生徒のチェックシートの記述から、次のことが分かった。

よくできた、まあまあできたと達成できている項目が多く書く力が向上したといえる。特に漢字は指示に従い正しく使われていることが分かる。

また、言いたいことや伝えたいこともよく書けていると評価している。段落を意識して書いていて、書く力が高まったと思う。

生徒は推敲を相互におこなうことであまり文章を書けなかった生徒も他の生徒の文章を参考にして書く力が高まった。

また、推敲でチェックしてもらった感想を見ると友達に評価してもらい自信をもつことにもつながったとの感想もありお互いに学びあっている様子が伺える。

上記のことから今後も、チェックシートを活用していきたい。

聞き取りカード (女子用)			
24年1月24日(火)			
2年2組 番, 氏名 ()			
おもしろかった、よかった、など具体的に書く。			
氏 名	視点のおもしろさ	文体の工夫	ひとこと感想
パソコンからみるのもいい。	小説の登場人物の心理が読み取れた。	手紙の書き方に興味した。	小説の登場人物の心理が読み取れた。
	TV番組の面白さ。	「あー」「まー」などの声の入れ込みが面白かった。	めっちゃ面白かった。
	音楽の歌詞の面白さ。	歌詞の面白さ。	歌詞の面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	テレビ番組の面白さ。	テレビ番組の面白さ。	テレビ番組の面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
全体から見ていたのでとてもいい作文だと思いました。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。
	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。	100円ショップの面白さ。

図 12 発表の評価

[考察]

図 12 について。自己紹介の文章を全体の前で相互に発表し評価し合った。その結果を図 12 に示すが、互いにしっかりと評価していたことが分かった。

互いに発表し合うことで、例えば普段は発表しなかった生徒がしっかりと発表していたなど、その生徒の普段は目に付きにくいよさが発見できた。

また文章を書くことがあまり得意でない生徒は、他の生徒の発表を聞いて参考になり、文章の書き方が分かったと喜んでた。

さらに、補習授業で文章を書く学習もおこなったが意欲的に参加し文章を仕上げることができた。

教師だけでは指導が難しい生徒も他の生徒の励ましやアドバイスを受けて具体的な例を加えたりして、文章がよくなる場面が見られたのでペア学習の効果があったと思われる。

3 自己評価カードからの検証

次に自己評価カードから検証する。

国語科学習ワークシート 自己評価カード		
		平成 24 年 1 月 ()
		2 年 2 組 番 氏名 ()
○よくできた, △まあまあできた, ×できなかった,		
1	自分を見る視点を決めて書くことができた。 評価の理由, 感想, 質問, 反省など 自分の好きな事なので, おぐきまりました。	○
2	読む相手を考えて書くことができた。 評価の理由, 感想, 質問, 反省など 小説っぽくかいたので, 自分がよんでいる本だと思ってかきました。	○
3	伝えたいことや知らせたいことを考えて書くことができた。 評価の理由, 感想, 質問, 反省など 題名を最後に決めたので, おじやんしている所があると思います。	△
4	文体を考えて書くことができた。 (小説・報道文・紀行文・手紙文・日記文・劇の台本・脚本・物語など。) 評価の理由, 感想, 質問, 反省など 小説だと思ってかきかきやすかったです。	○
5	文末をそろえることができた。(敬体 ~です。~ます。常体 ~だ。である。その他) 評価の理由, 感想, 質問, 反省など けいごじゃないので, かきやすかったです。	○
6	自分の周囲を振り返ることができた。 評価の理由, 感想, 質問, 反省など 心の中で思っている, 文字でかくとはあまりなかったもので, 自分のまわりをもっと知ることができました。	○
7	普段気づかなかった自分を発見することができた。 評価の理由, 感想, 質問, 反省など わかっていても, そのままの自分, というかんじでした。	×

3. 自分の文章でいいところを探して書いてみよう。
例 ・文末を～じゃ にしたので親しみやすい文章になった。
文末を, ～だ。にしたので 報告みたいかなって思いました。
遠まわしな言い方がなくて, 分かりやすい文章になったと思います。

4. 今回の学習を振り返って自分がよくできたと思うことを書いてみよう。
例 ・自分を振り返り新しい自分を発見することができた。
・作文の書き方が分かってよかった。
作文を今前に, 連想してかくことで, 自分がかきたい内容が, おぐきまりました。
自分がいつもお世話になっている楽器にも気持ちがあると思うと, これからも, 大切にしようって思いました!

図 13 自己評価

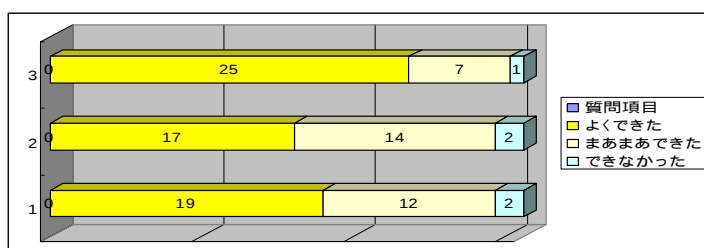


図 14 自己評価の結果

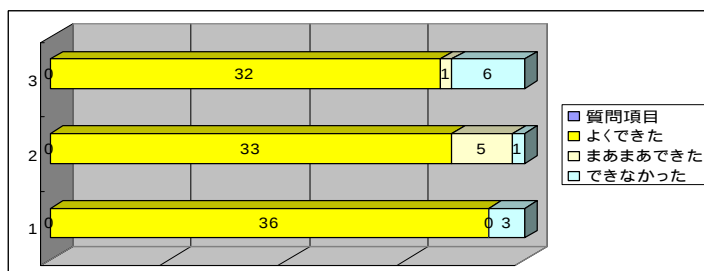


図 15 分析結果

[考察]

図 14 は自己評価の集計結果である。

- 1, 視点を決めて書けたか
- 2, 伝えたいことは書けたか
- 3, 文体を考えたら

との質問に「よくできた」, 「まあまあできた」を合わせたら 9 割以上ができていた結果となった。

図 15 では同じ項目で教師が分析した結果を載せた。生徒の自己評価では文体を考えることはできたとしているが教師の目からすると, できていない生徒が 39 名中 6 名いて, 文体を考えさせることが難しく今後の課題であることに気づいた。

4 検証授業後の自己評価カードの感想から見た検証

次に検証授業後の生徒の感想から，文章を書けるようになったことが伺える。表5に示すように肯定的な感想が多かった。

表5 検証授業後の自由記述の感想

- いろんな視点で作文を書く楽しさがわかりました。
- 文章をつくったりすることは苦手だけど物語みたいに書いたらできた。
- 作文をちゃんと書けた。
- 前よりももっと作文を書くときのレパートリーが増えたので良かったです。
- 作文の書き方が分かった。
- 作文の基本的な書き方が理解できてとても良かったです。
- 文末をそろえることができた。
- 作文を書く前に連想して書くことで自分が書きたい内容がすぐ決まりました。
- 作文の書き方が上手くなってよかった。

表5には生徒たちの学習後の感想をのせた。

特に作文を書く前にマインドマップで連想してから書くことで自分が書きたい内容がすぐ決まると回答した生徒が多かった。

5 生徒の作文からの検証

これまで，文章を書く力がどれだけ向上したかを検証1～4で書く力を文章の中身の面から検証してきた。次は生徒たちの文章を検証授業の前と後で文字数においてどの程度向上したか確認してみる。

ア 検証授業の前後の文字数の変化（文字制限200～400字）

表6 検証授業の前後での文字数の変化

検証授業前の文章の文字数	検証授業後の文字数
平均 182 文字	平均 271 文字

[考察]

表6・図16にある通り，検証授業を通して文字数が平均89字増加している。事前作文で200字以上書けた生徒が21人であったが事後は34人の生徒が200字以上を書くことができた。このことから生徒の書く力は字数の面からも向上していることが伺え，本研究の成果だと思う。

イ 検証授業前に文章をかけなかった生徒の変化

表7 0～2行以内の生徒の変化

A男	0字	10行（約200字）
B男	0字	8行（約160字）
C子	0字	17行（約340字）
D男	2行	8行（約160字）
E男	2行	8行（約160字）
F男	2行	10行（約200字）
G男	2行	10行（約200字）
H子	2行	10行（約200字）
I子	2行	15行（約300字）

[考察]

表7にあるように検証授業の前には0～2行（40字以内）しか書けなかった生徒たちが，検証授業で書ける行数が大幅に増加しているのを見て取れて，書く力が大幅に高まったと考えられる。この生徒たちの文章は，字数が増えただけでなく，内容的にも向上していた。マインドマップを取り入れた結果，題材選びができるようになった，材料を集めることができるようになった，また構成を考えることができるようになったなど，文章を書く要素が向上した結果だと考えられる。書く材料を集めることができた結果，描写も具体的な事柄が詳しく述べられ

ているなど文章がよりよいものになっている。「マインドマップを取り入れた結果，書く意欲が高まった」との感想も生徒から挙がっていた。

書く力が向上した他の理由として，これまでは書けなかった生徒もペア学習やグループ学習を通して，相互に推敲したり発表を聞いたりする活動で他の生徒の文章の例を見て，書き方の方法を習得した結果，文章を書くことができたものと考えられる。これらはペア学習の成果の表れだと捉える。

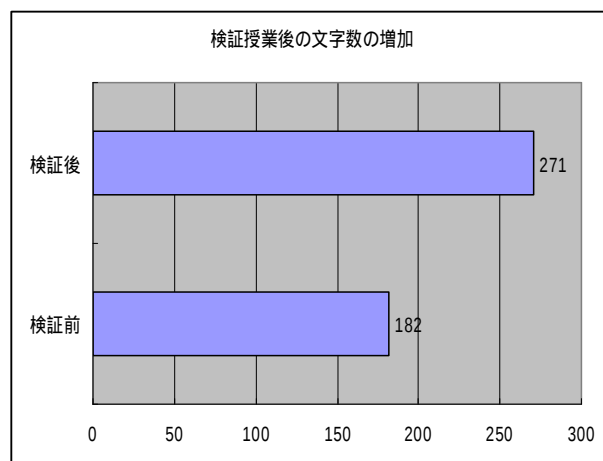


図16 検証授業後の作文の字数の変化

6 「マインドマップを利用することの効果について」のアンケートからみた検証

次に文章を書くときその内容をマインドマップで集めることの効果について、事後のアンケートから次のような結果となった。(表8)

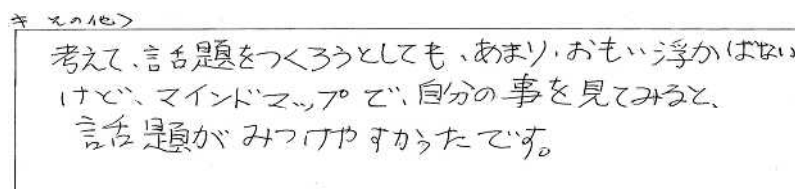
表8 マインドマップの効果についてのアンケート

		はい	いいえ
質問1	マインドマップで連想してから作文を書くとき文章は書きやすくなったか。	35名	3名
質問2	はいと答えた人へ それはなぜですか。		
ア	書く内容が決めやすい。	28名	
イ	構成を考えやすい。	17名	
ウ	自分が何に興味があるか分かりやすくなった。	13名	
エ	イメージしやすくなった。(想像しやすい。)	19名	
オ	推敲がしやすい。	4名	
カ	マインドマップ自体が楽しい。	6名	
キ	その他。具体的に書いてください。		
質問3	いいえと答えたひとへ 具体的に書いてください。		

[考察]

「マインドマップで連想してから作文を書くとき文章は書きやすくなったか」の問いに「いいえ」と答えた生徒が3人いた。その理由としては、「めんどくさい。マインドマップ自体楽しくない。」と回答した。しかし、この生徒たちも好きではないながらも、それなりに努力してマインドマップを仕上げることはできていた。また自己紹介の文章も書きあげており発表することもできていた。

また、マインドマップで作文を書くとき文章を書くのが書きやすくなったと答えた生徒の一人は図15のような感想を述べていた。



左図17のようにマインドマップで発想が広がったり、自分のことが客観的に見ることができると生徒のつづきからマインドマップの有用性がわかった。

図17 マインドマップの効果についての感想

研究の成果と今後の課題

本研究は「マインドマップを活用した『書く力』を高める指導の工夫」をテーマに、マインドマップを活用した作文指導の工夫をおこなってきた。その成果と課題を次のようにまとめる。

1 研究の成果

- (1) 文章を書くとき課題設定や取材の作業の段階でマインドマップを取り入れると発想が広がったりアイデアが湧き、また自分の思考を目に見える形で客観的にみることができ、書く内容が見つかりやすくなることが分かった。
- (2) 作成したマインドマップを互いに見せ合うことでマインドマップの書き方が分かった。
- (3) 書いた文章を相互に推敲したり発表し合うことで、文章を書くのが苦手な生徒も互いに学び合うことにより文章の書き方が分かり、書く能力が向上することが分かった。

2 今後の課題

- (1) 文章を書くことの指導事項の中の記述する力は、本校の生徒の課題でもあるのでこれからも力を入れて研究していく必要がある。その指導ではペア学習を学習形態として取り入れることにより、今までできなかった生徒相互の学び合いが図られ文章を書くのが楽しくなると考えられる。

- (2) 文章を書くとき題材を広げるのにマインドマップが有効と分かったが、このマッピング法を系統立てて指導する必要がある、できたら１年からマッピングの例として、取り入れていけば３年までにだいた書ける力が向上すると思われるので今後の課題としたい。

3 終わりに

本研究において理論研究および検証授業を進める中でこれまでの自分の実践を振り返ることができました。これまで、日々時間に追われじっくり教材研究をするゆとりがなかったと反省しています。

書く学習の時間をゆとりをもって計画的に手順の指導までおこなう必要性を改めて実感したところです。今後もさらに研究を重ねる必要性を感じました。

新学習指導要領の改訂の趣旨は、「生きる力をはぐくむために言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力等を育成すること」であります。言語活動の基盤となる国語科としてはさらに、今後も言語を用いた表現の指導に力を入れていきたいと思ひます。特に今後の課題に挙げた、文章を相手に分かりやすく伝えるための「記述する力」は簡単には達成できないと思うので、これからも研究を積み上げていきたいと思ひます。相手意識や目的意識をもって文章を書くという意識を高めるだけでなく、書き方のスキルの面でも指導していきたいと思ひます。

本研究の機会を与えてくださった宜野湾市教育委員会の諸先生方、研究の進め方を指導してくださいました西康勝研修係長、助言をいただいた瑞慶山良常教育研究所所長、比嘉栄真真志喜中学校校長先生に心より感謝申し上げます。また、検証授業にあたり、いつも温かく迎え入れ、研究にご理解ご協力いただきました真志喜中学校の諸先生方に深くお礼申し上げます。そして、共に学びあい、支えあって研究を進めてきた同期研究員の先生方、いつも温かく見守り、支えてくださったはごろも学習センターの皆さんに深く感謝いたします。また、いつも応援してくれた家族にも感謝いたします。

最後に、本研究を進めるにあたり、沖縄県立総合教育センターの島仲由美子主事には、お忙しい中、論文の書き方だけでなく国語の基礎・基本、研究のいろはを懇切丁寧にご指導いただきました。

誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

< 主な参考文献 >

- ・トニー・ブザン 「マインドマップ超入門」 2011 ディスカバヴァー・トゥエンティーワン
- ・西辻正副編著 「国語の授業を変える 1 評価規準をどう創るか 中・高等学校編」平成 23 年 株式会社明治書院
- ・月刊ビジネス・アスキー編集部編 「本当に頭が良くなるマインドマップ “かき方” 超入門」2010 株式会社アスキー・メディアワークス
- ・一般社団法人ブザン教育協会編「小学生のためのマインドマップで作文すらすらワーク」 2010 株式会社小学館
- ・「中学校学習指導要領解説国語編」 平成 20 年 9 月 文部科学省
- ・月刊国語教育 5 別冊国語科指導開発事典 2008 東京法令出版
- ・田近洵一、井上尚美編 新訂国語教育指導用語辞典 1999 教育出版株式会社
- ・樺島忠夫、中西一弘編 「作文指導事典」1980 東京堂出版